

水辺の探検2006

共催:Yamanashi みずネット、甲府河川国道事務所

I 小柳川流末の水辺の探検

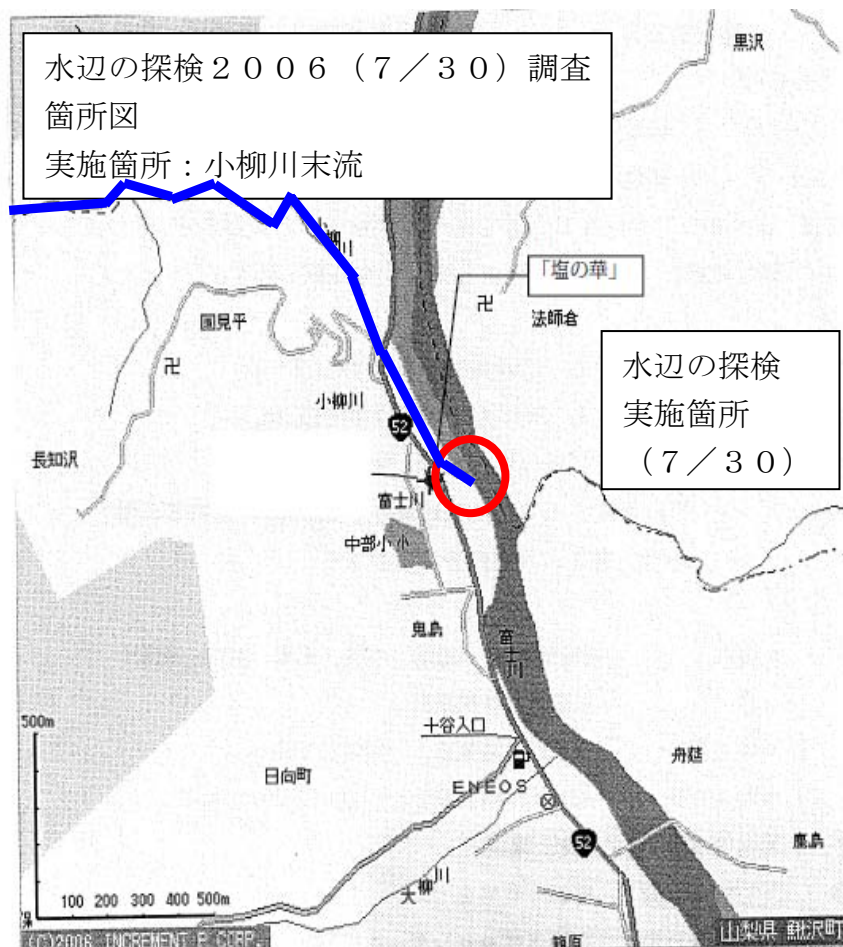
日時: 平成18年7月30日(日) 9時20分～13時00分

場所: 小柳川流末

天気: 晴れ

指導員

- 魚類 : 桐生 透(山梨県水産技術センター)
- 魚類と鳥類 : 清水 誠(やまなし淡水生物研究会、日本野鳥の会山梨支部)
- 底生動物 : 馬場 邦義(Yamanashiみずネット)
- 植物 : 村松 正文(日本高山植物保護協会、植物写真家)
- 蝶類 : 土橋 一男(甲州昆虫同好会)



実施

水に入る2つのグループ「魚類」、「底生動物」と、陸上で探検する2つのグループ「植物」と「蝶類」のうち、各1グループを選び、指導員とともに水辺を探検した。探検の後、高齢者ふれあいセンターにて、指導員がそれぞれのグループで観察された生物を写真とともに解説した。小柳川流末とその周辺の生物を、観察した生物と同様に観察しなかった生物も知る事ができた。

結果

観察できた生物を、表—1に示した。きれいな水にすむ底生動物が観察され、これらの底生動物などを食べる魚が観察された。底生動物は石の表面や石の裏、そのすきまにみられ、魚は水際の植物帯の下に多く見られた。カジカは、山梨県レッドデータブックで要注目種とされ、生息環境が悪化しているといわれるが、小柳川流末では、多くみることができた。魚は富士川と行き来しており、生息にはいい環境であった。

表—1 観察された生物

内容	魚類など	底生動物
概要	カジカやアブラハヤが多く確認出来た。山梨県内にいる淡水魚46種のうち、7種確認できた。	きれいな川にすむ底生動物が確認出来た。
確認種名	(確認種 7種) カジカ、アブラハヤ、アユ、オイカワ、ウグイ、ヨシノボリ、サワガニ (その他 3種) カジカガエル、ツチガエル、ヒゲナガカワトビゲラ	(確認種 7種) ヒラタカゲロウ、ヘビトンボ、ヒゲナガカワトビゲラ、コオニヤンマ、ナガレトビゲラ、コガタシマトビゲラ、カゲロウの仲間
内容	植物	蝶類など
概要	乾燥に強い草等が多い。	13種の蝶が確認できた。食草は高齢者ふれあいセンター周辺にあった。
確認種名	(確認種 22種) アキノウナギツカミ、ヤハズソウ、ムシトリナデシコ、オオイヌタデ、アレチマツヨイグサ、クズ、ツルヨシ、ツユクサ、エノコログサ、タケニグサ、コセンダングサ、オオブタクサ、ニセアカシア、ネムノキ、ヨモギ、ウルシ、シロザ、アカツメクサ、ヨシ、チチブフジウツギ、タチヤナギ、カナムグラ	(確認種 13種) ツバメシジミ、キチョウ、モンキチョウ、キタテハ、テングチョウ、ウラギンシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、アゲハ、キアゲハ、チャバネセセリ (その他 2種) ミヤマアカネ、ハグロトンボ

植物は、川より一段高い川原と護岸にあり、水量がふえてもふだんは水をかぶることのない場所にあった。乾燥に強い草が多くみられた。洪水の後では植物がかわることもあり、また、木は上流から、種子や枝が流れ着いたものと説明された。

川原では、マメ科の植物やネムノキを食草とするツバメシジミやキチョウ、カナムグラを食草とするキタテハ、クズを食草とするウラギンシジミなどがみられた。イネ科の植物を食草とするヒメウラナミジャノメやチャバネセセリ、キャベツを食草とするモンシロチョウは高齢者ふれあいセンターの周辺にみられた。蝶は食草がなければ生息できないことから、植物との近い関係を知ることができた。

どんな生物がいるかを、みることができたこと、そして、生物のすみ場は環境に影響を受け、生物同士がお互いに関係していることを学んだ。

写真—1 魚類と底生動物



投網



実施状況



採取状況



実施状況



コオニヤンマ



ヘビトンボ



アユ



オイカワ



カジカ

写真—2 植物



実施状況



アキノウサギツカミ



オオイヌタデ



ヤハズソウ



ムシトリナデシコ



アレチマツヨイグサ



ツルヨシ



クズ



ツユクサ



タチヤナギ



カナムグラ



ウルシ

写真—3 蝶類など



キチョウ



ミヤマアカネ



ハグロトンボ



キタテハ



ヒメウラナミジャノメ



ウラギンシジミ



モンキチョウ



モンシロチョウ



ベニシジミ